

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術論文) 小学生が主体となって実践する地域密着型防災教育に関する研究 《筆頭論文》	共著	2020年12月	広島国際大学教職 教室教育論叢, 第12号, pp.16-22	論文全体の概要: 避難所として開設されることの多い小学校において、その場所を最もよく知っている児童と教職員とが主体となった実践的な体験学習を実施した。児童たちは実際に体育館で段ボールベッドの組み立てや防災グッズの体験等を行い、防災について知識と技術を身に付けることにより、「自ら助ける」立場に成長することが出来た。自分と家族、それぞれの避難についても考え、避難の“楽しさ”を知ってもらうことも出来た。 総ページ数:7頁 著者:井山慶信、岡田大爾
2 (学術論文) 情報リテラシーの経年分析について～大学生の論理的思考力向上を目指して～ 《筆頭論文》	共著	2021年12月	広島国際大学教職 教室教育論叢, 第13号, pp.67-74	論文全体の概要: 大学1年生の情報リテラシー能力について、どれくらい身に付いているか、2007年から2019年まで、Excelを用いた関数等の正答率から考察を行った。情報リテラシーに必要な授業内容が年々増加している中、論理的思考力が必要な各種関数の正答率は比較的高く保っているものの、小中高で修得しておくべき基礎学力である比率・割合の正答率の方は、今も昔も低い傾向となっていた。 総ページ数:8頁 著者:井山慶信、橋本清勇
3 (学術論文) 中学生の自然災害に関する認識の特徴:広島県府中町と兵庫県神戸市の比較調査 《筆頭論文》	共著	2022年3月	兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究, 第3集, pp.1-14	論文全体の概要: 土砂災害の防災教育に取り組んでいる広島県府中町および地震防災教育に取り組んでいる兵庫県神戸市に位置する中学校の1年生を対象に、水害と地震災害の誘因と素因などに関するアンケート調査を実施した。府中町では洪水に関する理解が深く、小学校における水害に関する防災教育の成果と考えられる。一方、神戸市では地震についての理解が深く、市独自の学校防災教育による成果かも知れない。 総ページ数:14頁 著者:井山慶信、川村教一、有道俊雄
4 (学術論文) 大学での土砂災害に対する防災教育の効果に関する研究 —授業前後の考えの変化の理由を中心として—	共著	2023年3月	防災教育学会防災 教育学研究, 3-(2), pp.83-94	論文全体の概要: 土砂災害における住民の避難率の低さが大きな課題である。そこで大学1年生に対し、防災授業を受ける前と受けた後で、自身の防災意識にどのような変化があるか、その教育効果について分析を行った。最前線の専門家の対策を学修後は、「社会的受忍」としていた学生の半数以上が「施設整備」や「警戒避難」「居住移転」に変更する等効果があったが、依然として自然災害の規模や予測の困難さから、対策せずに災害を受け入れる学生も多くいることが判明した。 総ページ数:12頁 著者:岡田大爾、森下淳、石原茂和、岡田寛明、井山慶信